

令和6年度 第14回

新春の集い

日時 令和6年 1月28日(日) 午後2時 開演
会場 前浜防災コミュニティセンター(前浜公民館)
南国市前浜1534-1
主催 鵬翔流吟友会

鵬翔流吟友会 理念

千詩万詠して心身を磨き

古今の風雅に親しみ遊びては

花鳥風月を友とし天恵に謝す

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以って人間陶冶に努める

自ら心魂洗い浄めて

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり

鵬翔流吟友会 会詩

提携ていけい 師友しゆう 鷗盟おうめい を結むすび

偏ひんに詩歌しうかを探さぐって妙聲みようせいを琢みがく

風雅ふうがの精神せいしん 承継しょうけいを誓ちかい

更さらに期きす吟道ぎんどう 百年ひゃくねんの誠まこと



二 挨拶

鵬翔流吟友会
会長 梶田鵬翔

新春を壽ぎ一言ご挨拶を申し上げます。
令和になつて、早くも六年目を迎えます。今年も元旦早々の能登半島地震や津波、日航機の事故がありました。何か深い意味があるのかも知れませんが、雪の舞う寒い中、被災者の皆様には、家族を亡くされた方々の想像を絶する孤独感や避難所での不自由な生活を余儀なくされてる皆様への慰めの言葉も見つかりません。
その方々の多くが、自分の事よりも、もつと大変な人がいるからと他人の事を気使われ、優しい思いやりの心には、日本人として世界に誇れるものがあります。一日も早い復興を願つております。
さて、今年の干支は甲辰（きのえたつ）、甲とは、生命や物事の始まり、また、成長を意味し、辰は龍で昇り龍という言葉がありますように、大自然の活力が漲り、ともに植物が育ち、エネルギーが溢れ出すという、今後は素晴らしい一年になることを期待し祈つております。
また、我が鵬翔流にとつても、十年余りの間に六名の方が亡くなり、コロナ感染症流行ご高齢や体調不良等も手伝つて、どこかの会派も吟詠人口の激減に歯止めがかかりません。人の魂の琴線に触れる吟声は、多くを語らずとも内なる氣力を喚起させ、題材となる漢詩にはその時代に生きた作者の感性や思想が宿つています。今を生きる一般の人には、漢触れる機会も少ないので、少し難しいような捉え方をされても致し方ないのかなと思、います。是非、和の文化、精神文化を継承し、世界に発信できる特に若い人達へのアプローチを是非ともお願い致します。
何よりも、皆様にとつて健康で幸多き一年となりますよう、深くご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

大会係り役員

大会会
大会副会
大会副会
大会実行委員会
大会実行副委員長
大会事務局

会場準備 ○

梶田 鵬翔
飯田 鵬祥
山中 鵬清
川添 鵬雄
笹岡 鵬俊
川添 鵬雄
宝蔵 瑤光

笹岡 鵬俊
横山 熙光
大野 正翔
西村 雄紫
川添 鵬雄
(屏風運搬)

受付案内 ○

中西 鵬篤
山村 彩光

感染症対策 ○

山村 彩光
川村 鵬泉

会費会計 ○

飯田 鵬祥

接待 ○

宝蔵 瑤光
川村 鵬泉

司会 ○

飯田 鵬祥
松木 鴻光
松代 怜翔
戸田 燐紫

会場進行 ○

笹岡 鵬俊
大野 正翔
西村 雄紫

音響 ○

山中 鵬清
横山 熙光

記録広報 ○

川添 鵬雄
戸田 燐紫

	(一)	「新春の集い」 式典	川添 鵬雄
	(二)	開式挨拶	笹岡 鵬俊
	(三)	鵬翔流吟友会理念朗読	中西 鵬鶯
	(四)	鵬翔流吟友会会詩合吟	松木 鴻光
	(五)	新年挨拶 「明けまして・・・」	飯田 鵬祥
	(六)	門下生挨拶	梶田 鵬翔
	(七)	会長挨拶	上本 竹永
	(八)	来賓挨拶	西内 隆純
		六六庵吟詠会 高知県本部 本部長	竹村 邦夫
		高知県県議会議員・鵬翔流吟友会顧問	近森 憲一
		高知市市会議員・鵬翔流吟友会顧問	川村 鵬泉
		鵬翔流吟友会 後援会 会長	宝蔵 瑤光
		お免状授与	
		介添	

（敬称略）

3 立山を望む

第二部

2 富士山

1 名槍日本号

第一部

無伝の部

合吟

作者

作者

作者

国分青厓

石川丈山

松口月城

東雲教室

宝蔵

正

女

性

男

性

第三部

初伝の部

4 従軍行

作者

王昌齡

宇佐教室

西村雄紫

5 胡隱君を訪ぬ

作者

高啓

東雲教室

戸田燁紫

第四部

中伝の部

6 松竹梅

作者

松口月城

高須教室

横山熙光

7 太平洋上作有

作者 安達漢城

高須教室

山村彩光

8 横倉山安德帝御陵を訪ぬ

作者 梶田鵬翔

東雲教室

宝蔵瑤光

9 荒城月夜の曲を聞く

作者 水野豊州

東雲教室

松木鴻光

第五部 奥伝の部

10 餘生

作者 良寛

南国教室

西山匠翔

第六部

皆伝の部

11 城東の荘に宴す

作者 崔敏童

蒔絵台教室

松代怜翔

12 春風

作者 白居易

宇佐教室

大野正翔

第七部

総伝の部

13 石鎚山

作者 海量法師

棧橋教室

公文鵬翠

19	18	17	16	15	14
新 正 口 号	廬 山 の 瀑 布 を 望 む	不 識 庵 機 山 を 撃 つ の 図 に 題 す	鍾 山 即 時	春 簾 雨 窓	寶 船
作 者	作 者	作 者	作 者	作 者	作 者
武 田 信 玄	李 白	頼 山 陽	王 安 石	頼 鴨 厓	藤 野 君 山
高 須 教 室	宇 佐 教 室	南 国 教 室	高 須 教 室	長 浜 教 室	高 須 教 室
飯 田 鵬 祥	中 西 鵬 鶯	笹 岡 鵬 俊	川 添 鵬 雄	川 村 鵬 泉	山 中 鵬 清

第八部

来賓舞・会長吟詠

20 松竹梅

作者

松口月城

高知県漢詩連盟理事

内田紫紅

21 寶船

作者

藤野君山

六六庵吟詠会高知県本部
本部長

上本竹永

22 国宝紅白梅図屏風に寄す

作詞

梶田鵬翔

鵬翔流吟友会

会長

梶田鵬翔

23 三百六十五歩のマーチ

閉会の挨拶

川添鵬雄

三百六十五歩のマーチ

(一)

幸せは歩いてこない だから歩いていくんだね
一日一歩三日で三歩 三歩進んで二歩下がる
人生はワンツーパーンチ 汗かきベソかき歩こうよ
あなたのつけた足跡にや 綺麗な花がさくでしょう
腕を振って足をあげてワンツーパーンチ
休まないで歩け ソレワンツーパーンチ・ワンツーパーンチ

(二)

幸せの扉は狭い だからしゃがんで通るのね
百日百歩千日千歩 ままになる日もならぬ日も
人生はワンツーパーンチ 明日の明日はまた明日
あなたは何時も新しい 希望の虹を抱いている
腕を振って足をあげてワンツーパーンチ
休まないで歩け ソレワンツーパーンチ・ワンツーパーンチ

(三)

幸せの隣にいても 分からない日もあるんだね
一年三百六十五日 一歩違いでにがしても
人生はワンツーパーンチ 歩みを止めずに夢みよう
千里の道も一歩から 始まる事を信じよう
腕を振って足をあげてワンツーパーンチ
休まないで歩け ソレワンツーパーンチ・ワンツーパーンチ